

とよなか 環境



ニュースレター

発行：豊中アジェンダ21推進会
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市生活環境部環境企画課
〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1
Tel:06-6858-2106 Fax:06-6842-2802

この号のハイライト

P.1 環境展/P.2~3 環境展川柳/P.4 自然学習講座、竹酢の話/P.5 交通部会、IQクッキング/P.6 交通部会、生活部会/P.7 とよなか市民環境会議/P.8 今後のスケジュール、編集室から

2003年(平成15年)3月号 NO.2 (通巻第20号)

いま
現在から始めよう温暖化防止の行動を

環境展 2002



を区切り童謡コンサートをおこなうなどの工夫を盛り込むことができた点だろう。新しい取り組みのなかでは、公募した環境川柳が地下の会場に展示されたのも出色の一つだった。準備段階での苦労はともかく来場者を楽しませる展示であった。

とよっぴー(堆肥)で育てたお米のおにぎりに加え今回は蒸したさつま芋の試食もあり、竹コップのお茶のサービスとともに来場者からは大いに喜ばれた。こうした実行委員会による心からのもてなしは、今後も環境展の特色の一つになりそうである。

今後の環境展に向け、より充実した内容が期待されているが、特に企画について大胆な内容を一新する時期に来ているなど意見も出され、来年は実行委員会を早期に立ち上げることが必要だ。すでに新しい議論も始まっている。(2、3ページに関連ニュース)

竹コップのお茶とおにぎり、蒸し芋のもてなしも

2002年の環境展は、12月7、8日に市民会館で「現在から始めよう温暖化防止の行動を」をテーマに開いた。来場者は両日を合わせて1200人、特に1日目は雨天だったにもかかわらず昨年を上回る来場者があり一応の成功だったと言える。

これまでの環境展と少し変わったのは、思いきってステージイベントを取り止めることで、展示部門のスペースを広げたり、色々な工作教室を設け、また時間

マルチスクリーン風に



年中行事の中でも12月の環境展は私たちの活動のピークをなすイベントである。色々なアイデアを結集するとともに、豊中アジェンダ21推進会だけでなく、より広く環境に関心をもつ市民の *

小学校からも 色々な展示が

6校の小学校からの参加があった。竹の子の水彩画100点の大展示は豊中の自然を象徴する「竹やぶを守ろう」と環境に関心を持った子どもの気持ちの率直な表現。環境壁新聞では「水とごみから棚田へ」や、「廃材になる竹を利用した竹炭」について実物もそえたアピール。また自由研究の報告として「水と油と洗剤について」の展示。総合学習の時間に取り組んだりサイクル作品なども出されていた。

いずれも力作で、未来を生きる子どもたちの環境に対する鋭い目がおとなの私たちに迫ってくる。「小学校の展示も色々あってよかった」という感想に、そんなことを感じさせられた。

クイズラリーは よかったです

「クイズラリーに色々教えられ、よかったです」と参加者の感想にあった。このような感想があると、質問項目の製作者としては最高にうれしかったと思う。14項目の質問は展示パネルなどを見ると回答できるようになっていて、すべてに回答してリサイクル自転車などの抽選の権利が発生する。なお、今回のクイズラリー参加者は288人だった。

「蒸した芋とお茶のサービスのあったことが、うれしかったです」という感想もあった。竹コップはもちろん手作りだし、おにぎりを乗せた竹の皮も豊中の自然の匂いを感じさせてくれた。これらのお茶のサービスやお芋とおにぎりなどの試食のおかげで、地下の展示会場も大いに賑わうことになった。



くるくるとくるくるまわるリサイクル

豊中市 本岡 和巳

裏紙をいつも電話のメモにする

刀根山 山口 寿

伝えよう明るい未来いい環境

詠み人知らず

寒いけど車庫を通り過ぎペダル踏む

長興寺北 木田 増美

ミスコピーたくさん作ってリサイクル

飛馬 仁

生ゴミを堆肥にしたいが土地がない

夕日丘 栗田 道代

省エネはまず貴女の体からと夫は言う

立花町 新開 悦子

草刈る昨日の虫はいづこやら

夕日丘 栗田 道代

ごみ減量みなで取り組む集団回収

服部本町 今井 文子

子や孫に残せみどりの道しるべ

詠み人知らず

子や孫に見られて恥じないわがぐらし

上野坂 居安

飽食やめまずはその腹なんとかせい

服部本町 香 魚人

子らの世の地球を案じ省エネす

服部元町 上野 昌子

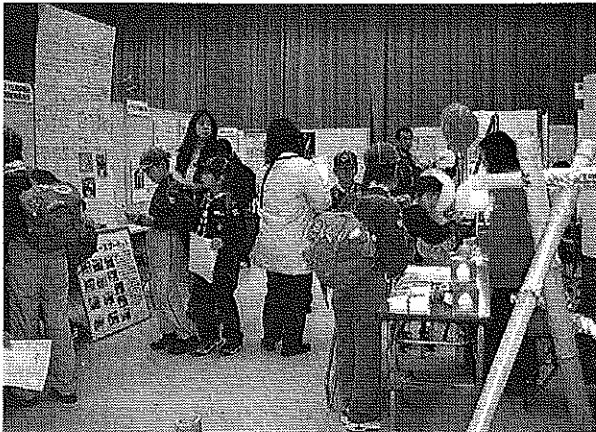
環境展で五十句の川柳が寄せられました。今後もイベントなどで、引き続き川柳の募集を行う予定です。どうぞお楽しみに！

環境展2002を見る

* イベントでもある。今回も多くの特団体と企業から参加を願った。この紙面では全体像を十分に報告しきれないが、感想も合わせ取りあえず要点だけ見ることにする。

エコ商品を手に取り 確かめたり、抽選会も

企業・団体の出展は5企業と6団体。買物袋リサイクルやエコ商品を紹介する大阪北生協／大学祭で調査したリターンナブル皿の環境影響について展示する大阪大学生協／クイズと抽選でエコグッズプレゼントの関電三国営業所／太陽電池の実物を展示する京セラ／生物分解性ごみ袋の展示はタ



カミネ産業／古紙利用のトイレトーパー展示の西日本衛材／ディーゼル微粒子低減装置を展示する阪急バス／エコキャンプの提案と子どもアジェンダ21の活動状況紹介、また自然の物でクリスマス飾りを作るボーイスカウト豊中地区／竹材使用の立ちかまどや竹テーブル展示はガールスカウト豊中地区／今日から始めよう3Rのエコライフをと呼びかけるのはとよなか消費者協会。その他

あけぼの男女共生社会づくりの会の展示もあった。これらの出展はいずれも力作で十分に説明しきれず申し訳ない。

交通部会はアンケート、 工作教室も色々



各部会とプロジェクトのパネル展示はもちろん、とよっぴー（堆肥）で育てた野菜の頒布と・試食のおにぎりや蒸した芋でおお忙しだったのは花と緑のネットワーク。交通部会は現在も実施中のレンタサイクルに関するアンケート集め（200人を超える）。

自然部会は木のつるや木の実を使ってリース作り。生活部会も、リサイクルおもちゃ教室、裂き織教室、チラシを使った小物入れ作りなど、工作コーナーが花盛り。その他、展示とともに並べていたエコライフカレンダーは201人に持ち帰ってもらった。

また、1日目の夕方からは豊中、箕面、池田の3市で環境問題に取り組むパートナーシップ組織の交流会を開催。熱心な情報交換と懇談をすることができた。（奥野 享）

環境川柳

ピックアップ

ポイ捨てをじっとみつめる目があるよ

立花町 新開 惟展

正月が過ぎたら省エネと計を立て

北緑丘 八木 勇

行楽の土産にゴミを持ち帰る

蛍池 浅埜 輝男

CO2ビールのゲップ飲み込んで

北緑丘 奥野すすむ

ゴミの山分別したら宝物

豊中市 千原 重利

ゴミ出し日小さい袋で胸をはる

長興寺北 木田 増美

節電節水公共交通脱温暖化

豊中市 辻井 康雄

迷うゴミ電池管球空ボンベ

南桜塚 浅井 正

生ゴミを堆肥に化かすコンポスト

蛍池中 浅埜 輝男

公園の草ゴミ溝も老人力

夕日丘 栗田 道代

白いゴミちょっと動いてコサギかな

北緑丘 荒井 道子

温暖化青い地球は旧い夢

八尾市 廣田登代子

暑ければつい温暖化の所為にする

服部元町 上野 昌子

めんどろだその一言をのみこんで

永楽荘 渡部 恭子

自然学習講座第3回「都市計画と自然」 講師：中山 徹さん

「都市計画と自然」-公園・緑地の役割-というテーマで奈良女子大学教授中山徹先生の講演会が行われました。

豊中で生まれ、育ったという先生のプロフィールから、豊中に対する愛情と情熱が講演を通して終始強く感じられました。

都市計画の最大の目標は、都市的、田園的良さをいかに一本化するかにあり、特に20世紀は急成長した産業と、急増した人口対策に終始したと強く感じた。

箕面、中之島、天王寺の公園の緑化を考えて計画されたのは明治初期の事である。1940年頃緑地をいかに計画するか、いかに造って行くか、東洋のマンチェ

スターと言われた大阪は工場と住宅による市街地で覆い尽くされていた。現在の中央環状線に沿ってグリーンベルト状に、服部、鶴見、久宝寺、大仙の4大緑地が作られた。さらに内環状線沿いに計画されていた次のグリーンベルトは、戦後の復興計画で消滅してしまった。

1980年代人口が大幅増加する中で、緑地公園を創るという計画がなされたが、21世紀の公園はこれ

で良いのかと検討している間に、バブルが崩壊してその影響を受けた。21世紀を迎えるにあたり、今後の緑地公園のあり方について、どういう街がふさわしいか、1980年代の緑地のままで良いのか、先をよく見通して行う事が必要と論じている間に、20世紀の人口増加、産業の成長期は過ぎ去り、日本の人

口も現在12700万人、100年後は9000万人、最も減少すると4000万人といわれている。

産業も今までのように広い面積を必要としなくなった。数十年を境にまったく変わってくると思う。豊中も人口が減少する。20年、30年の範囲で見極める必要がある。この時期に自然環境を回復するために、昔

は農家の人がやっていたのを里山も含めて維持管理を充実する必要がある。緑地の維持管理には、戦後宅地化が進み農地が小さくなっていることから市民と行政が協力して行く必要がある。

以上の講演内容から今後の都市計画は、行政、市民が一体となり、互いに協力していかないと管理することが困難である旨の内容で締めくくられました。

(大塚健治)



ヒメボタルの竹藪を整理

11月30日、1月28日、2月15日にヒメボタル保全地区の竹藪の清掃をしました。倒れている竹や枯れている竹を切って整理する作業です。冬は蛍の幼虫が地表近くに潜っている時期。その間に人が入って作業してもあまり影響がないと考え、この時期に毎年竹の整理を行っています。以前(ヒメボタルが多くいた時)と違って竹藪内が大変乾燥して来ています。餌になる貝類が少なくなり、ヒメボタルの減少の原因になっているようで、保護していく上での課題の一つです。

卵からかえった幼虫は腐葉土等の中で陸生の巻貝を食べ、何度か脱皮しながら幼虫の時期を地表近くで過ごします。5月中頃に蛹(さなぎ)から成虫になり飛び交う時期はその年によって多少異なります。いつ頃がピークかはその年の気候や初見日などから判断します。時間帯は夜の8時頃から10時頃までです。今年こそお見逃しなく観に来てください。(那須野素子)

竹酢液も採ってます

昨秋から千里中央公園で竹炭を焼いておりますが、この工程段階で粗竹酢液を採ることが出来ます。タール臭の強い酸性の液体で酢酸を主成分として、200種以上の有効成分を含んだ天然資材で人体に無害です。

採取された竹酢液は半年ほど静置しておき、得た黄褐色の液体に更に活性炭を混入して、残り微量のタール及び不純物を取り除いて製品化されます。

さて、効用についてはおおむね200~300倍に薄めて、葉面散布すると作物のアブラムシ、ダニ等の害虫駆除に、また立枯病、ウドンコ病など病気を抑える効果があり、植物の活性化を促します。堆肥づくり、ムカデなど虫の忌避剤、水虫などなど多方面にわたり有効である事が知られています。

なお、使用にあたっては少しずつ濃度を調整しながら試してみても良いでしょう。

(三宅史郎)

交通部会・レンタサイクルの試み

交通部会では、クルマ利用から公共交通利用への転換を図り、地球温暖化防止に寄与するために、大阪モノレールの運営主体である大阪高速鉄道株式会社と連携し、レンタサイクルシステム導入事業に取り組んでいます。この取り組みは、地球温暖化対策や交通渋滞対策として、駅でのレンタサイクルシステムの導入により、公共交通の利用を便利にすることで、少しでも車利用から電車やバスといった公共交通の利用へと転換することを目的としております。また、利用する自転車についても、放置自転車及びその廃棄などの対策として、放置自転車（30台）を修理・再生したりレンタル自転車を活用し、再利用することで、共同利用の環境づくりを進め、社会問題の解決を図りたいと考えております。

この事業は、平成14年度の環境省地球温暖化モデルプロジェクトに採択されており、大阪府・豊中市の協力を得ながら、平成14年11月25日から大阪モノレール千里中央駅下の駐輪場で試行的（02.11.25～

03.4.30）に実施し、導入効果の分析や事業化に関する検証を行います。

レンタサイクルの貸出形態については、月極利用（2,000円/月）、随時利用（100円/回×回数）、一時利用（100円/回）の3種類があり、朝6:00から夜23:10までご利用いただけます。利用資格についても、簡単なアンケートにご協力いただける方（高校生以上）であれば誰でもご利用いただけます。実施時期が冬ということもあり、現在のところ、利用率は芳しくありませんが、利用者のアンケート結果（中間報告）では、大半の方から「引き続き利用したい」とのご回答をいただいております。少しでも多くの方にご利用いただくことが環境問題解決への第1歩となりますので、ぜひ一度ご利用下さい。

（泉谷育弘）

（申込み・問合せ先 ㈱オーケーティー興産事業部
中西さんまで 06-6832-5901）



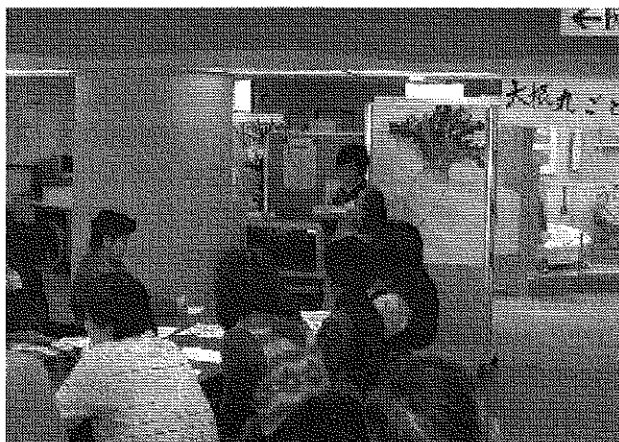
花と緑のネットワークとよなか・大根丸ごとクッキング

くらしかん登録グループ7つが集まって、大根を丸ごと利用した試食会および大根について沢山の勉強をしました。大根はリサイクルプラザで出来た堆肥「とよっぴー」で愛情一杯に育てられて、みずみずしく、甘く、葉は勿論、皮も全部頂きました。試食したものは、菜飯、大根とすじ肉の煮込み、五色なます、葉とちりめんの佃煮、皮のカリカリ漬、福神漬風と、どれも素材が生かされ美味でした。

勉強したことは、

①生ごみはリサイクルしましょう。生ごみは燃やせば、ただのごみに。しかし、土にかえせば循環する。②大根のルーツから始まり、品質、旬はいつか、良い大根の選び方、価格、

輸入野菜の現状まで説明されました。③大根の葉・根の栄養および美味しい食べ方から効用まで幅広く教えていただきました。



また、一度に沢山手に入った時にも役立つゆき届いたプログラムでした。20人の定員のところ30人の出席がありました。若い人から年配の人まで申込みがあり、調理された人と試食しながら活発な質問が飛び交いました。

くらしかんで7つものグループが、大根という一つのものを媒体としてのイベントは初めてでしたが、く

らしかんの人でも大盛況でしたねと喜んでくれました。近々、大根料理のレシピ集を発行します。

（山下早苗）

産業部会勉強会・事業所の一般廃棄物処理について

「ごみ」についての勉強会を開催

1月29日(水)、今年度第4回目の産業部会が開催され、事業系一般廃棄物(オフィスや店舗などから出るごみ)の勉強会を行いました。まず、豊中のごみ処理基本計画について豊中市環境事業部総務課の江川さんよりお話があり、その後同じく環境事業部総務課の矢野さんと長坂さんから事業系ごみの現状と課題をお話いただきました。

○事業系ごみの分別収集の取り組みは遅れているのが現状であるが、市としては分別収集、分別搬入ができるようにチェック体制と指導を強化していく。

○いくつかの事業所がグループを作って分別収集をすることにより、収集コストを上げずに集められるオフィス町内会のようなシステムに取り組んでいただけたらありがたい。

○機密書類のリサイクルはいくつかの事業所が一緒に取り組み、収集・運搬に各社交代で一人が付き添って投入を見届けるというやり方をしているので、機密データが漏れる心配はない。今後参加企業を増やして欲しい。

参加者からの質問への回等も含めて、話された重要なポイントは以上のようなもので、参加者の方たちは熱心に聞いておられました。

市の事業系のごみに関しては取り組みが遅れているのが実情ですが、やっと動き出したという状況のようです。今後は行政と事業所(企業)が一緒になってリサイクルを進めたり、分別を徹底することにより、ごみに対する意識を高め、ごみ減量につなげていければよいと思います。(茨木かつ子)

生活部会・環境家計簿の学習会とエコクッキング

2月27日午前10時から昼食を入れて午後2時まで、くらしかん調理室で「体にも地球にもやさしいエコクッキング」の講習を行うとともに、2003年の環境家計簿についての学習会を行った。参加者は24人、うち13人が調理に参加。エコクッキング講師は竹村亨子さん。

竹村さんが指導する「体と地球にやさしい料理」とは日本の伝統的な和食の勧めであり、東洋思想の陰陽を料理に応用したもの。煮炊きも、体を温める根菜類と体を冷やす葉菜類や果菜類を交互に重ねて煮付け、ご飯は餅栗入りのご飯。

根菜などは皮をむかないで調理するから、調理くずは玉葱や里芋の皮、しめじの石づきなどごく少量。むしろ食材の包装の方が多い。煮炊きにはもちろん鍋帽子(ある程度煮えたらコンロから下ろした鍋に綿入れの帽子をすっぽり被せて余熱を利用)も登場。

あとから参加した試食組も、工夫を凝らした料理を味わいつつ竹村さんの話を聞いた。

続いて、もう一つのテーマである環境家計簿について今井文子さんが説明する。

今年の環境家計簿は、①モニターがより多くなるよう簡素化。二酸化炭素排出源としての量の多い電気・ガス・水道・ガソリンの4項目に絞った。②二酸化炭素への換算は、昨年までは炭素の量で出していたが、環境省の方針に合わせ二酸化炭素の量で表すことにした。したがって昨年までの数値よりも、3.3倍程度大きい数字に変わってきた。③アジェンダの行動目標に「環境に配慮した店をひいきにしよう」の項目



もある。生活部会では今年はグリーンコンシューマーの運動にも力を入れているが、それらについても気づいたことなど意見欄に書いていただきたい。皆さんの意見が非常に参考になっている。

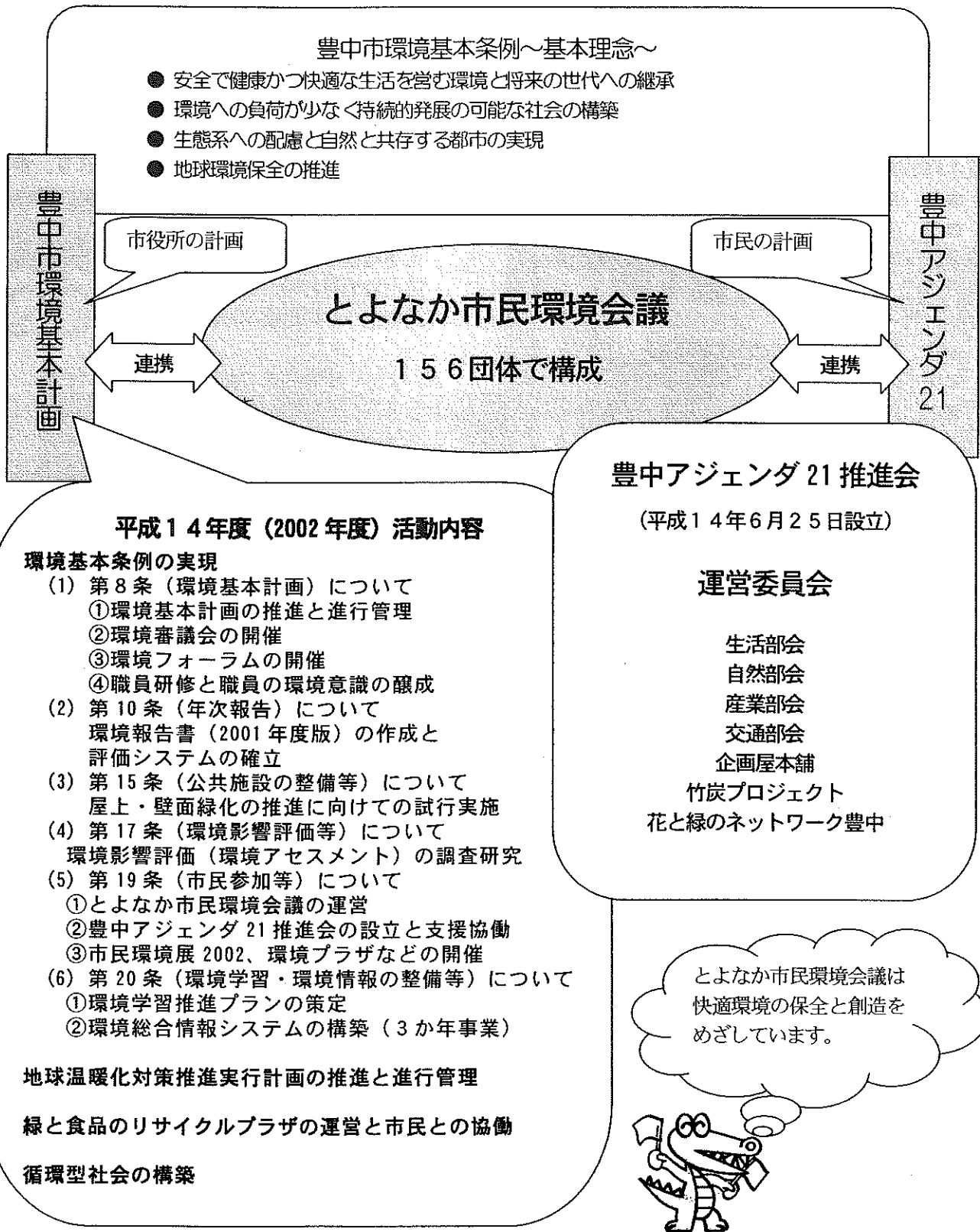
その他、昨年のモニター総人数は123人、毎月データを提出している人数はおよそ100人、12ヵ月間皆勤で出している方は、70~80人ほど。今からでも間に合いますから忘れていたらぜひ提出を、とお願いも。

久しぶりのモニターの集会であり、初めての人同士の会話はすむひとときとなった。(奥野享)

とよなか市民環境会議

とよなか市民環境会議の取組み ～快適環境の保全と創造をめざして～

とよなか市民環境会議は、豊中市環境基本条例（平成7年(1995年)10月制定）に基づき、豊中アジェンダ21（地球環境を守るとよなか市民行動計画）を策定するための組織として、平成8年（1996年）5月に市内各種団体や事業者の参加のもとに発足しました。以降行政との協働とパートナーシップにより快適環境の保全と創造をめざして、さまざまな取組みを推進しています。



今後のスケジュール

竹炭プロジェクト炭焼きと窯だし

- 日 時 3月25日(火) 9:00~12:00
3月26日(水) 9:00~12:00
- 場 所 千里中央公園 水さん場
- 内 容 25日(火)竹炭焼き
26日(水)窯だし

花と緑のネットワークとよなか・堆肥化講習会

- 日 時 4月12日(土) 10:30~11:30
- 場 所 くらしかん
- 内 容 家庭でできる簡単な堆肥化の方法

生活部会・学習講座

- 日 時 3月29日(土) 14:00~16:00
- 場 所 くらしかん 体験学習室
- 内 容 グリーンコンシューマー学習会

自然部会・春の野草調査まとめ

- 日 時 4月12日(土) 10:00~12:00
- 場 所 くらしかん 3F会議室
- 内 容 野草調査まとめ・作業

*詳しくは「広報とよなか」をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

- 自然部会 毎月第2月曜日 18時~
- 生活部会 毎月第3土曜日 13時30分~
- 花と緑のネットワーク 毎月第1金曜日 14時~
- 月例会 毎月第4水曜日 19時~

詳しくは、事務局までお問い合わせください。

編集室から

遅まきながら環境展の特集とした。編集しながら考えたのだが、やっぱり12月の環境展は私たちの年中行事としては一つの大きなピークをなすイベントである。その位置づけの大事さが、これから年々強まって来るのではないかと、そんな気がしてきた。それが、そのまま豊中における、環境の運動発展のバロメーターになるのではないかとも思う。

しかしどのようにすれば、環境展をより実り豊かで充実したものにしていけるか。それが問題であり、ほんとうのところ先が見えにくい。ただ、これまで同様に豊中アジェンダ21推進会の部会活動のエネルギーを市民とともに結集し盛りあげたいという思いは、確かだと感じているのだが…。

考え得ることの第一は、発想の転換をすることである。私たちがとよなか市民環境会議の発足とともに、アジェンダの討論を始めた頃のことを思い出す。思いきり自由な発想で、望ましい環境像を描いて見ることからスタートした。

あれから6年。今私たちは山道を登りながら、眺望の開けた新しい地点に立って新しい豊中の「環境都市像」を描き始めたいと思ったりしている。6年間に蓄えてきた運動の成果、組織の広がりをスプリングボー

ドにして夢を語り合うなら、これまでの運動にはない大きな「環境都市像」を構築することも、単なる妄想には終わらないだろう。そんな力が備わって来た。

編集者というのは、いつも夢を追い求めるように慣らされている。私も「編集室から」をすこし大きくしたことで、途端にあれこれと新しい取り組みを語りたくなって来た。でも、これは決して単なる夢想ではない。私たちが豊中アジェンダ21推進会という新しい衣に馴染んで来るとともに、新年度を迎えて冒険心に満ちた船出を考え始めたときだからである。(Z)

《広報チーム》

Z奥野、T浅井、M荒井、W岩瀬、P大村

編集スタッフ募集

豊中アジェンダ21推進会では、3ヵ月ごとにニュースレターを発行しています。

パソコンの得意な方、取材に出掛けて原稿を書いてくださる方、編集を手伝ってくださる方を募集します。どなたでも大歓迎です。

まずは、事務局までお電話ください。

電話 06-6858-2127

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>